



キク編

病害虫注意報 2024年7月号



※農薬の使用はラベルの記載に従ってください。

土壌病害

---予防と対策---

高温に伴い、各種病原菌による土壌病害が発生しやすくなります！

〈対策例〉 ①適正な水管理を行う ②遮光剤等による高温対策
③活着促進資材を使用 ④予防薬剤を使用する

萎れ症状等で根傷みの兆候がある場合は早急に酸素剤の使用など、根の回復に努めましょう！

FRAC	対象病害・使用目的	薬剤名	希釈倍数・使用量	処理方法
14	立枯病	リゾレックス水和剤※	500～1,000倍 3L/m ²	土壌灌注(生育期/5回)
4,11	立枯病 (リゾグニア菌)	ユニフォーム粒剤※	18kg/10a	土壌表面散布 (定植時または生育期/3回)
32	発根促進	タチガレン液剤	1,000倍 5～10L/m ²	土壌灌注 (挿し芽直後/1回)

※花き類・観葉植物登録

立枯病にはこれ！
おすすめです！



ユニフォーム粒剤

定植前：9～18kg/10a
全面土壌混和
(白さび病同時防除)

特徴

- ▶定植前（白さび病登録）、定植時・生育期（立枯病登録）
→**どのステージでも使用可能！**
- ▶**2種類の有効成分**(アゾキシストロビン・メタラキシルM)で
立枯病【リゾグニア属菌】を予防

今月のおすすめローテーション



地域の防除事例を基に作成しています(輪菊栽培)。品種、栽培条件によっては病害が発生する
場合があるためご注意ください。さらに、展着剤・葉面散布剤等を加用する場合もご注意ください。

時期	RAC	対象病害虫	薬剤名	使用量・希釈倍数	使用時期	回数
定植時	P02	白さび病	予 inochioキクツチャ粒剤	6～9kg/10a	定植時	1回
生育初期	M03	白さび病	予 アントラコール顆粒水和剤	1,000～2,000倍	発病前～ 発病初期	6回
	23	アザミウマ類・アブラムシ類・ハダニ類	inochioセイレーンフロアブル	2,000倍	発生初期	3回
消灯時	11	白さび病	予・治 アミスター20フロアブル	2,000倍	発病初期	5回
	6	アザミウマ類	アフーム乳剤	1,000～2,000倍	発生初期	5回
発蕾時	3	白さび病	予・治 ラリー乳剤	3,000倍	発病初期	5回
	30	アザミウマ類・ハダニ類 材外ハダニ・ハダニ幼虫	グレース乳剤	2,000倍	発生初期	2回
破蕾時	7	白さび病	予・治 カナメフロアブル	4,000～8,000倍	発病初期	3回
	34	アザミウマ類	ファインセーブフロアブル	2,000倍	発生初期	2回

フーモン

有効成分が害虫をすばやく窒息死させます！
気門封鎖剤を利用して
他剤の使用回数を抑えましょう！



ハダニ類 1,000倍
収穫前日 回数制限なし

※高温時の使用注意
※混用不可薬剤あり

海藻サンバ

1,000倍：挿し穂浸漬処理、または葉面散布

- ▶コリンによる**光合成促進**と**発根促進**
- ▶海藻エキスによる**発根促進**
- ▶転流を促進



肥料登録番号
生第101491号